

事例3 特定非営利活動法人鴻巣こうのとりを育む会 埼玉県鴻巣市

コウノトリを育むモデル水田づくり

活動場所

- ・位置……………鴻巣市小谷地内・大芦地内
及び原馬室地内
- ・フィールドタイプ……田んぼ
- ・面積……………約1.2ヘクタール

活動の目的

鴻巣をはじめ関東地方には、かつてコウノトリが、多数生息していました。鴻巣という地名の由来のひとつとも言われる、コウノトリ伝説のある鴻巣の街に「コウノトリを呼び戻そう」と活動しています。コウノトリも棲める、自然豊かな水辺環境を取り戻し、将来コウノトリの飼育放鳥後の餌場となる、環境づくりを目指して行きます。「鴻巣コウノトリを育むモデル水田づくり」プロジェクトを立ち上げ、環境創造型農業の普及を図ります。

活動の内容

営農家との連携により、「コウノトリを育むモデル水田」を設置し、専門家の指導を仰ぎながら、「水田耕作」や「普及活動」を行うと共に、年間をとおして田んぼの「生きもの観察会」などのイベントを展開します。実施に当たり、「鴻巣コウノトリを育むモデル水田づくりプロジェクト実行委員会」を組織し、平成25年4月から活動を開始しました。この「モデル水田」の特徴は、①無農薬・有機肥料栽培、②中干し延期調整、③二回の代掻き・深水管理による抑草、④冬季湛水、⑤田んぼにビオトープおよび魚道の設置等です。このような活動をすることで、荒川中流域エリアの「コウノトリ野生復帰事業」との連携を図ることです。

今後の展望

現在の品種は、埼玉県産ブランド米「彩のきずな」です。モデル水田形式による作付けは増加する傾向です。収穫米の販売先確保や農家への助成金制度の創設などが課題となってくると考えられます。

一言コメント

カエルなど両生類をはじめ、魚道から水田に上った、ドジョウ・ギンブナは産卵が確認されました。イナゴにいたっては、地域の方も昭和30年代に戻ったと驚くほどの数が確認されました。今後は、行政や企業へ参画を要請して、水辺環境再生のため、課題を整理し認識の共有化を図り、新たな体制づくりを試行したいと考えます。



モデル水田ビオトープ内での田植体験



魚道を遡上するドジョウ



雪のふゆみずたんぼ

実施体制

- 構成員：(1) NPO法人鴻巣こうのとりを育む会
(2) 小谷南グリーンネット、
(3) (公財)埼玉県生態系保護協会
(4) JA鴻巣市特別栽培米部会有志

事務局：鴻巣コウノトリを育むモデル水田づくりプロジェクト実行委員会

連絡先：

〒365-0031 埼玉県鴻巣市ひばり野1-5-1
NPO法人鴻巣こうのとりを育む会事務局 宮川牛太郎
E-mail mygw251127@ruby.plala.or.jp